



地域連携クリティカルパスを 運用しています

理事・循環器内科
部長
加藤 法喜



循環器内科談話会

地域医療連携による地域完結型医療を実践するために平成17年7月14日、市立札幌病院循環器内科談話会（以下、談話会）を立ち上げました。主旨は「顔が見える交流、より親近感をもてる交流の中で、双方向での患者さんのよりスムーズな紹介・逆紹介（病-診連携、病-病連携）により、地域医療にさらに貢献していきたい（挨拶文より）」というもので、現在は2回/年の定例開催とし、平成21年11月6日に第8回談話会を開催させていただきました。談話会の運営は10名の医師（表1）による世話人会で議論していただき、決定しております。第9回談話会は平成22年5月11日に開催する予定です。テーマは「心疾患を有する場合の運動許容条件と基準（仮題）」で、北翔大学大学院教授、沖田孝一先生に特別講演をお願いしておりますので、多数の参加をお待ちしております。

地域連携クリティカルパス

談話会発足当初より地域連携クリティカルパス（以下、連携パス）の作成と運用を重要課題の1つとして活動してきました。“連携”パスは当科から一方的に

連携医療機関に提示して使用するものではなく、①相互に意見を出し合い、合意に達したものを運用することにより“連携”の資格を得られるものであり、②作成後も定期的に開催する連携の会（談話会）において、内容を進化させていくべきものであります。このような手続きを経て、第8回談話会において冠動脈ステント留置後の連携パスを提案させて頂き、その運用を開始させていただくことができました。一例として、薬物溶出ステント留置後パスを表2（医療者用）と表3（患者さん用）に示しました。退院時の診療情報とともにご活用いただき、日々の診療のお役に立てていただけるものと確信しておりますが、改良すべき点がございましたら遠慮なく当科までご意見をお寄せください。

救急医療とCCU

1983年に救急医療部（1993年より救命救急センター。以下、センター）が当院に新設され、1995年の現在地への新築移転とともにCCUが8床（post CCU4床を含む）の独立した看護単位としてセンター内に設置され、現在に至っております。

表1 市立札幌病院循環器内科談話会世話人

代表 加藤 法喜	市立札幌病院理事（循環器内科部長）	中央区
石田 祐一	石田内科クリニック院長	中央区
河野 通史	こうの内科院長	中央区
水谷 匡宏	旭山内科クリニック院長	中央区
富田 文	富田内科・循環器科クリニック院長	中央区
佐久間千尋	佐々木内科クリニック院長	中央区
正木 芳孝	大通公園循環器クリニック院長	中央区
松永 崇	松永内科クリニック院長	西区
羽田 均	はねだ内科クリニック院長	西区
佐藤 良二	さとう循環器科・内科クリニック院長	厚別区

急性期病院における当院のCCUはまさに地域連携の中核を担うものであり、①緊急要請に対応するためにも循環器内科医が毎日当直していることはもちろん、②冠インターベンションなど、チームによる対応が必要な時は複数の医師を24時間、365日、いつでも緊急招集する体制を整えております。また、③緊急の要請に対していつでも受け入れられるように、特に週末にはベッド調整をして、満床を理由に患者さんの受け入れをお断りすることがないように努めております。さらに、④CCUがセンター内にあることにより、PCPS（経皮的人口心肺補助装置）などによる高度で集約的な医療が、ICUの医師スタッフによる支援を常時得られることにより、迅速かつ確実に行うことができるのも大きな特長の1つであると考えております。

なお、一刻を争う緊急時のご依頼、ご相談にはCCU直通電話（ハートQQ）が大変便利です。循環器内科医が直接対応いたしますので是非ご利用下さい。

CCU直通電話（24時間体制）

011-736-8199
(ハートQQ)

札幌市医師会 救急二次医療への参加

当科は札幌市医師会の救急二次医療体制（循環器・呼吸器系）に参加しています。依頼のあった患者さんは病態によりCCUか一般病棟に入院して治療する、または外来処置・治療のみで帰宅いただくことになりますが、初期対応はCCUの当直医が行っています。



循環器内科医師・研修医・病棟薬剤師

地域医療室と地域連携センター

当院の地域医療連携を担当する組織としては、平成7年に札幌市医師会が当院に設置した地域医療室と平成20年4月に当院が設置した地域連携センターがあります。地域医療室は札幌市医師会会員（医師）の紹介による診療予約とスムーズな受診・検査（前方連携）を主な業務としており、開設から今日まで多大なる実績を積み上げて来られました。当科としても大変お世話になっており、この場を借りて札幌市医師会と会員の諸先生、地域医療室のスタッフの皆様にご心より感謝申し上げます。一方、地域連携センターは以前から行っていた看護相談、医療相談などの業務に加えて、地域医療室を利用しないでご紹介いただいた患者さん、札幌市以外の医療機関からご紹介いただいた患者さんの診療予約（前方連携）と逆紹介（後方連携）を担当する地域連携業務を加えて発足したものであります。いかに逆紹介の実績を上げるかが急性期病院にとっては重要な課題であり、当科としても引き続き地域医療連携を推進してまいりますので、今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

表2 薬剤溶出性ステント地域連携バスシート医療者用

市立札幌病院/循環器内科
薬剤溶出性ステント留置後バス (連携専用) (1/10)

氏名: _____ 職名: _____ 科: _____ 病室: _____

住所: _____ 〒 _____

〒000-0000 札幌市 _____ 区 _____ 丁目 _____ 番 _____ 号

TEL: _____ FAX: _____

※このバスシートは、患者様のプライバシーを保護するために、氏名・住所・電話番号等の個人情報を記載するものではありません。必ずお名前を記載していただきます。

氏名	性別	市立札幌病院				中野クリニック				所在地	
		11月	12月	1月	2月	11月	12月	1月	2月		
患者	薬剤溶出性ステント留置後	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	薬剤溶出性ステント留置前										
	薬剤溶出性ステント留置後										
	薬剤溶出性ステント留置前										
医師	薬剤溶出性ステント留置後										
	薬剤溶出性ステント留置前										

※バスシートは、患者様のプライバシーを保護するために、氏名・住所・電話番号等の個人情報を記載するものではありません。必ずお名前を記載していただきます。

表3 薬剤溶出性ステント地域連携バスシート患者さん用

薬剤溶出性ステント留置後バス (連携専用) (1/10)

氏名	性別	年齢	住所	電話番号
氏名	性別	年齢	住所	電話番号
薬剤溶出性ステント留置後	○			
薬剤溶出性ステント留置前				
薬剤溶出性ステント留置後				
薬剤溶出性ステント留置前				

※バスシートは、患者様のプライバシーを保護するために、氏名・住所・電話番号等の個人情報を記載するものではありません。必ずお名前を記載していただきます。